

決勝リーグ

7 / 28

第1試合

女子イ
樟蔭東 83 $\left(\begin{array}{l} 12 - 11 \\ 21 - 08 \\ 28 - 07 \\ 22 - 03 \end{array} \right)$ 29 豊中十五

樟蔭東、豊中十五でスタート。ディフェンスは樟蔭東がオールコートでのマンツーマン、豊中十五はハーフコートでのマンツーマン。

序盤、お互いにかたさが見られたが、豊中十五は、のリング下ターンシュート、の3Pシュートで得点し、リズムをつかむ。樟蔭東はミスが目立ち苦しい立ち上がり。しかし、1Q半分を過ぎた頃から強いディフェンスで樟蔭東がペースをつかみ出す。1Qは12-11で樟蔭東リード。2Qに入っても樟蔭東のプレッシャーに豊中十五は、ボールを運べず苦しい展開。しかし、樟蔭東インターセプトからの速攻もゴール下でのミスが続き、なかなか得点に結びつかない。残分5樟蔭東のリバウンドシュートから調子をつかみ速攻も決まり出す。豊中十五は、からの合わせのみの得点で、残分4たまたまタイムアウト。しかし、流れは変わらず、その後樟蔭東はリバウンドからの速攻を確実に得点し、点差が開き出す。豊中十五は、が1対1でがんばるが33-19。

後半に入っても、樟蔭東は相手にボールを運ばせず、次々とボールをうばい、得点を重ねる。豊中十五もパッシングダウンを試みるもののボールをなかなかフロントコートに運べず、連続して得点を許す。選手交代をしながらあきらめず、の3Pシュートなどで得点するものの、逆に樟蔭東もなどが連続して得点し、点差は大きくなる。

ここで、勝敗は決して4Q中盤から互いにメンバー交代。決勝リーグ第1試合83-29で樟蔭東がまず1勝を挙げた。豊中十五も荒削りだが能力は高く、明日の戦いによっては、十分にチャンスはある。

女子ロ
羽衣学園 35 $\left(\begin{array}{l} 14 - 29 \\ 08 - 08 \\ 02 - 19 \\ 11 - 21 \end{array} \right)$ 77 田辺

羽衣学園、田辺。羽衣がオールコートマンツーマン、田辺はハーフマンツーマンでスタート。

立ち上がり田辺のミドルシュート、速攻からの得点。のバスケットカウントで、0-7とリードする。その後、羽衣ものインサイド1on1で対抗するが、田辺のペースで14-29とリード。2Qに入っても田辺の速攻がよく出て加点していく。一方、羽衣は残分4から1-2-1-1ゾーンプレスでリズムをつかみかけるが、ミスが目立ち、波に乗りきれない。逆に田辺のリバウンドシュート、のドライブで、羽衣たまたまタイムアウト。その後一進一退の攻防が続くが、22-37で田辺リードで前半終了。

後半に入っても、田辺はスピードが落ちることなく、速いパス回し、速攻でリードを広げていく。羽衣も

の3Pで反撃しようとするが、シュートが決まらず点差は開いていく。4Qに入り羽衣の3Pで、意地を見せるも、田辺が最後まで走りきり、35-77でタイムアップ。

田辺は残り2試合、走りきり速いバスケットができれば、近畿大会の切符を取れるのでは。一方の羽衣も能力が高く、うまくかみ合えば挽回は充分期待できるであろう。

第1試合

女子
樟蔭東 84 $\left(\begin{array}{l} 27 - 05 \\ 20 - 04 \\ 19 - 10 \\ 18 - 01 \end{array} \right)$ 30 羽衣学園

樟蔭東、羽衣でスタート。

1Q、両者共にオールコートマンツーマンで始まる。序盤より樟蔭東の激しいマークに会い、羽衣はボール運びができず、開始2分で11-3と流れを樟蔭東が取ってしまう。また、残念なことに羽衣が接触によるケガで交代してしまう。その後も樟蔭東のトランジションゲームが続き、速い展開からシュートを狙い、1Q終了で27-5とリードする。

2Q開始より樟蔭東ターンオーバーからの速攻や3Pで、点差を広げ出す。一方羽衣も粘り強いゴール下のターンシュートなどで、応戦をするが、脚力の勝る樟蔭東が着実に得点を加算していき、第2Q終了時点で47-19と樟蔭東リードで折り返す。

後半、第3Qスタートは樟蔭東、羽衣

。樟蔭東はメンバーを入れ替えるが、その動きのあるディフェンスは止まらず、ミスはあるものの得点を増やしていき、羽衣もなどが得点を取りに行くが流れは変わらず、第3Q終了時点で、66-29とダブルスコアになってしまう。

第4Qは、両者とも次につながるメンバーを使い、経験を積ませるゲーム展開となってしまう。終了してみれば、84-30で羽衣が欠場したこともあるが、樟蔭東のワンサイドゲームとなってしまった。

女子
豊中十五 52 $\left(\begin{array}{l} 17 - 14 \\ 11 - 12 \\ 08 - 14 \\ 16 - 26 \end{array} \right)$ 66 田辺

立ち上がりから主導権を握ったのは、白豊中十五、3Pで先制すると、オールコート3-1-1のゾーンプレスを仕掛ける。赤田辺はターンオーバーを連発。開始1分で9-0とリード。しかし、ここでタイムアウトを取った赤は落ち着いて攻め始め、速い展開からシュートチャンスをつくり、次々と加点。1Q終了時点で、17-14と追い上げを見せる。2Qはお互に一進一退の攻防が続く。豊中十五はのインサイドプレーで4連続ポイント。対する田辺はの力強いリバウンドとシュートで得点を伸ばし、28-26豊中十五2点リードで前半を折り返す。

3Q田辺は、速い攻撃のペースを変えず、相手のプレスをかいくぐり、フロントコートに運んでは次々とシュートを放つ。ミスはあるもののじわじわとリードを広げていく。一方の豊中十五は、のハイローなどで、インサイドを攻めていくが、思うように得点は伸びず、40-36で田辺逆転リードで4Qへ。

田辺はからの空いたスペースへのパスがおもしろいように通り、また、周りもよく合わせて動き、リードを広げていく。豊中十五はからの攻撃で何とか食らいつこうとするが、田辺のオフェンスが優り、最終66-52で振り切り、田辺が2年連続近畿大会出場を決めた。

第3試合

女子				
		19 - 28		
		08 - 20		
田 辺 51		13 - 20	93	樟 蔭 東
		11 - 25		

田辺、樟蔭東ともにマンツースタート。

1Q樟蔭東オールコートマンツーマンからの速攻。5分で全員得点15 - 9と樟蔭東リード。対する田辺も3P、ドライブイン、から、からの合わせなどで対抗し、よく粘ってついていくが、樟蔭東の執拗なディフェンスに思うようにリズムを作れず苦しい展開。1Q28 - 19と樟蔭東リード。

2Qに入り、田辺もようやく本来の攻撃からのリバウンドショット、3P、から速攻からの合わせなどで、残分3、33 - 23の10点差について行く。樟蔭東も田辺の粘り強いディフェンスにシュートミスが続くが、の連続得点、の速攻で突き放す。前半48 - 27で終了。

後半、田辺はインサイドを攻めたいところだが、サイズのない分をスピードと読み、ポジショニングで、カバーする樟蔭東のディフェンスを崩せない。の3P、のカットインなどで、得点を重ねるが、樟蔭東の粘り強いディフェンスに少しずつポイントをずらされた。樟蔭東は最後までディフェンスをがんばり、着実に得点を重ね、91 - 49でタイムアップ。

昨夏の大阪1、2位同士の対戦。昨秋はエンデバーで主力を欠いていたといえ、全国2位の樟蔭東に大阪で徐々に土をつけた田辺に対し、樟蔭東が力の差を見せつけたゲームであった。

両チームの近畿、全国大会での活躍を期待します。

女子				
		12 - 12		
		18 - 14		
羽衣学園 50		16 - 12	51	豊中十五
		04 - 13		

羽衣学園、豊中十五でスタート。

両者マンツーマンで開始。羽衣のリング下シュート、の3P等で開始3分で10 - 2とリード。ここで、たまたま豊中十五タイムアウト。タイムアウト後、豊中十五がリング下でがんばり、四本連続シュート。流れを引き寄せ、1Qを12 - 12で終了。

2Qスタートメンバーは、両者とも1Qと同じ。羽衣学園ディフェンスをオールコートに変え、リズムをつかみ、開始早々20 - 14とリード。豊中十五のリング下、の3Pで反撃。残り1分で27 - 26と1点差まで追いつく。2Q終了間際、羽衣のの3Pが決まり、前半30 - 26と羽衣学園リードで終わる。

3Qスタートメンバー両者とも変わらず、羽衣学園の2P、の連続3P。豊中十五のリング下で応戦。残り4分で、43 - 33と羽衣学園10点リード、その後、両者、点を取り合い3Q46 - 38と羽衣学園8点リードで終了。

4Q立ち上がり、豊中十五のリング下シュート、の速攻で42 - 46と詰め寄る。

残り4分、羽衣学園タイムアウト。タイムアウト後、豊中十五、の連続リング下シュートで46 - 46の同点。羽衣学園、ファウルをもらいフリースローを落ち着いて2本決め、48 - 46。豊中十五、残り1分30秒、の3Pで48 - 49と逆転。ここで、羽衣学園タイムアウト。お互いに点を取り合い、残り36秒50 - 51で、豊中十五タイムアウト。羽衣学園プレスでボールを奪おうとするが、豊中十五が50 - 51で逃げ切った。